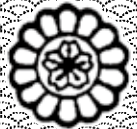




令和七年度 全国戦没者追悼式



一般財団法人
徳島県遺族会

会報

発行所
徳島市雑賀町
東開21番地1
一般財団法人
徳島県遺族会
TEL (088) 636-3212
FAX (088) 636-3213
<http://izokukai.jp/>
発行責任者
坂千代 克彦
印刷
グランド印刷(株)

八十年目の終戦記念日を迎えた八月十五日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で斎行された。

追悼式には天皇、皇后両陛下をはじめ、石破茂内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁長官などの各界代表、全国の戦没者遺族、約四千五百人が参列した。石破総理の式辞の後、正午の時報とともに参列者全員で黙祷を捧げた。

天皇陛下のお言葉を賜ったのち、衆参議長、最高裁長官、遺族代表として江田肇さん（埼玉県遺族連合会会長）が追悼の辞を述べた。

最後に参列者が式壇に献花を行い、本県代表としては、徳島県遺族会の坂千代克彦会長が献花を行った。

天皇陛下おことば

令和七年八月十五日(金)
日本武道館
全国戦没者追悼式

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦においてかけがえない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来八十年、人々のたゆまない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられました。多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歲月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願ひ、戦陣に散り戦禍に倒れた人々の意を表し、全国民と共に、心から追悼の一層の発展を祈ります。

語り部事業のご案内（奇数月に開催）

●第102回 11月8日（土）13:30～14:30 戦没者記念館

「戦後の暮らしの苦労について」 新開 悦博 氏（海部郡美波町）

新開様には、戦死した母の兄の話をはじめ、戦後の食糧難で主食として食べた「白いも」、県の木「ヤマモモ」が薪として使用されていた話などを語っていただきます。

●第103回 1月10日（土）13:30～14:30 戦没者記念館

「戦争（仮題）」 福池 葵 氏（鳴門市） 鳴門中学3年生

福池様には、曾祖母の実家で見つけた兵隊盃・兵隊徳利を自由研究で調べたこと、曾祖父のシベリア抑留での体験などを語っていただきます。

●第104回 3月14日（土）13:30～14:30 戦没者記念館

「知覧から出撃した第45振武隊」 山本 真由美 氏（鳴門市）

山本様は、徳島県遺族会青年部に所属しています。

ある本、そしてある人との出会いから知ることができた「第45振武隊」の出撃までの経緯などを語っていただきます。

全国戦没者追悼式

遺族代表 追悼の辞

令和七年八月十五日(金)
日本武道館
全国戦没者追悼式

本日ここに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、各界代表をはじめ全国各地から遺族の代表が集い、全国戦没者追悼式が厳粛に執り行われるに当たり、戦没者遺族を代表し、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

先の大戦が終わりを告げてから八十年目を迎えました。我が国は、この歳月において、塗炭の苦しみの中から、国民の懸命な努力によって、今では世界有数の民主主義国家となり、平和と自由を享受しております。

しかし、この陰には国を思い、最愛の家族の幸せを願い、故郷の友や山河を懐かしみながら散華された多くの戦没者がいることを、私たちは決して忘れることはありません。

私の父は、母が二十三才、私が二才、妹はまだ母のお腹の中の時、三十一才で亡くなりまし

た。朝鮮で終戦を迎えましたが、帰国を急ぐあまり飛び乗った引揚船でしたが、途中、朝鮮海峡において機雷に接触、沈没したことです。

生きて終戦を迎え、家族と共に将来の夢や希望を抱いていた父の無念さは計り知れません。

家族の大黒柱を失いながらも、祖父母と母は懸命に家業の農業を続け、その苦勞を子どもたちに感じさせるようなことは

全くありませんでした。が、思い返せば、相当な苦勞があったであろうことは想像に難くなく、今では感謝の思いと、当時

至らなかつた自分への後悔が絶えません。

世界に目を向けますと、今なお、侵略や民族紛争、宗教間の対立などで、多くの人々が犠牲とな

っています。戦後の厳しさを体験している我が国は、今こそ、争いのむなしさ、復興の難しさ、

平和の尊さを世界に伝えることが求められていると感じています。

私たち遺族は、「平和の語り部事業」などを通じて、平和の有難さ、戦いの悲惨さを後世に継承し、戦争のない平和な国に貢献する活動と、御英霊をいつまでもお守りするため、次世代による活動の拡充を目指し努力することを改めてお誓い申し上げます。

本日は、多くの御来賓の参列の下、かくも厳粛に追悼式を挙行していただきましたことに、遺族を代表して心から感謝申し上げます。

結びに、御英霊の御冥福と御参列の皆様のご健勝と御多幸を心から祈念申し上げます。追悼の言葉といたします。

令和七年八月十五日
全国戦没者遺族代表

江田 肇

徳島県護国神社例大祭

併せて終戦八十年臨時奉幣大祭のご案内

護国神社では、左記日程により恒例の例大祭を斎行いたします。この祭典は、県内各地からご遺族やご来賓の方々のご参列をいただき、わが国の平和の礎となられたご英霊に対して、感謝と慰霊の誠を捧げる大切なお祭りです。

又、今年は終戦八十年にあたり、天皇陛下から賜りました幣帛料をご神前に奉獻申し上げます臨時奉幣大祭を併せて斎行いたしたく存じますので、当日はお誘い合わせの上、是非ご参拝いただきますようご案内申し上げます。

尚、詳細の案内状や玉串料奉納帳などは、各市町村遺族会にご送付させていただきますので、宜しくお願いいたします。

日 時 令和七年十一月二日(日)
午前十時三十分から正午まで

※一般参列者用の駐車場は、台数に限りがございますので、なるべく乗り合わせていただくか他の交通機関にてご参拝ください。

お問合せ

徳島県護国神社社務所 電話 088(669)3090



終戦八十周年事業（日本遺族会主催） 「平和の語り部大会」等の開催



令和七年六月二十九日（日）、日本遺族会主催の終戦八十周年事業が開催され、本会からは坂千代会長、演副会長、山本副会長が参加しました。

当日は、靖国神社・御本殿での「全国戦没者慰霊大祭」に始まり、場所を九段会館に移し、「平和の語り部大会」の後、本年二月に全国の支部で青年部が結成されたことから「青年部結成の集い」を開催し、全国の参加者との意見交換を行うと

もに、交流を深めました。また、八十周年行事の一環として、日本遺族会会長表彰が授与され、本県では白川潔様と河野楨之様が受賞（九ページに関連記事掲載）されました。



令和八年度政府予算獲得に向けて 全国戦没者遺族代表者会議の開催



令和七年六月三十日（月）自由民主党ホール（東京都）において、全国の遺族代表者百七十八名が参集し、全国戦没者遺族代表者会議が開催され、本会からは坂千代会長、演副会長、山本副会長が参加しました。

また、来賓として森山自由民主党幹事長、福岡厚生労働大臣をはじめ、多数の自民党国会議員に御臨席いただきました。大会では、令和八年度政府予算に対する最重要要望項目として、「平和の語り部事業拡充強化」を期することが決議されました。

また、大会終了後に本会役員は衆参議員会館の県選出国会議員事務所に赴き、「平和の語り部事業」、「特別弔慰金支給法の改善」等について要望活動を行いました。今後、要望事項の実現に向け、全国の遺族会と連携しながら運動を継続して参ります。

令和七年度

徳島県戦没者追悼式を開催

令和七年八月二十九日（金）、令和七年度徳島県戦没者追悼式が、あわぎんホール（郷土文化会館）において、厳粛に開催された。

式は、今回も実行委員会（本会ほか県内各種団体で構成され、会長は後藤田徳島県知事）主催であり、各地区遺族代表をはじめ、国會議員、県議會議員、市町村長、市町村議會議長、県内各種団体代表者ら約五百名が参列した。



追悼式は県社会福祉協議会の折野好信会長の開式の辞で始まり、出席者全員の国歌斉唱、そして御英霊の平安を祈り、感謝を捧げる黙祷を行った。

続いて、後藤田正純知事は式辞で「戦後八十年の節目にあたり、先の大戦がもたらした大きな犠牲と深い悲しみを振り返り、恒久平和の実現のため不断の努力の積み重ねが必要である。戦争体験者の言葉に耳を傾け、当時の人々の思いを感じ取り、平和な暮らしを次の世代に継承しなくてはならない。」と述べた。

県議会から須見一仁議長、徳島県市長会から遠藤彰良徳島市長、徳島県町村会から古川保博北島町長、県中小企業団体中央会から布川徹会長、そして最後に本会の坂千代克彦会長が遺族代表として次のとおり追悼の言葉を申し述べた。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
（坂千代会長による遺族代表の言葉）

本日ここに、各界代表をはじめ、県内各地から遺族の代表が集い、令和七年度徳島県戦没者追悼式が、厳粛に執り行われるに当たり、戦没者遺族を代表し、謹んで追悼のことばを申し上げます。

昭和の大戦が終結し、八十年の歳月が過ぎ、戦時中の苛烈を極めた日々は、遠く去っております。この間、我が国は、残された遺族をはじめ、国民の弛まぬ努力によって発展を遂げ、二十一世紀の平和国家として、国際的な地位と信頼を確かなものにしております。

諸霊におかれては、今日の我が国の平和と繁栄の礎として、戦火にまみれ、病に斃れ、戦場の露と消えられたのでありま

す。
その御心は、祖国と家族の安寧を一心に願っていたことを、私たちは決して忘れてはおりません。

私たち戦没者遺族は、諸霊の声なき声を受けとめ、世代を超えて、その声をお伝えし、平和と日本の繁栄を護り続けて参ります。

このような中、徳島県戦没者記念館は、英霊顕彰とともに、戦争の事実をありのままに伝えるため、平成二十六年十月に開館いたしました。

決して、来館者に押し付けることなく、自ら、平和の意味を考えていただくよう展示を工夫し、ありがたいことに、これまで、六万五千人を超える方々にお越し頂きました。

加えて、奇数月第二土曜日に開催しております語り部事業は、百回を数えており、今後とも出来る限り、末永く続けて参る所存であります。

また、県内市町村の追悼式におきましては、関係者の方々のお力により、児童生徒の参列も増えており、「戦争の悲惨

さ」や「平和の尊さ」を次世代に語り継ぐ一助になるものと期待しているところであります。

御英霊を御祭神としてお祀りしております「徳島県護国神社」は、早いもので、昨年の秋、城山から移転遷座し、二十年を迎えました。

この二十周年を記念し、私たち遺族のほか関係各位の御協力のもと、実施しました記念事業の工事が完了し、今後安心して御英霊をお祀りできることになりました。

改めて皆様のお力添えの賜物と心より感謝申し上げます。

さて、我々遺族会の喫緊の課題は組織の継承であります。

現在、日本遺族会を中心に組織継承に取り組んでおり、本年二月には、全国各地の遺族会に次代を担う青年部が結成されました。

本会においても、青年部世代の拡充を図り、「平和の語り部事業」を基軸として、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に繋げる活動を更に進めて参ります。

また、最重点要望事項



でありました「特別弔慰金の継続・増額」については、全国の遺族会が一丸となり、国に対する要望活動を重ねて参りました結果、令和七年度以降における制度の継続と弔慰金が五千円増額され、年額五万五千円となりました。

今後も全ての遺族会が足並みを揃え、会員の福祉向上に心血を注ぎ、邁進して参ります。

さらに、関係の皆様方の御協力を頂きながら、

過去の戦争の悲惨さを語り
継ぎ、平和の尊さを次世代
に伝えて行くため、全力を
傾けて参ることをお誓い申
し上げます。

本日は、かくも厳肅に戦
没者を追悼する式典を挙行
して頂き、誠に有り難く感
謝申し上げます。

終わりにあたり、戦没者
の御霊の永久に安らかな事
を心よりお祈りいたしまし
て、追悼のことばといたし
ます。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

続いて献花に移り、後藤

に移り、後藤田知事に就いて、戦没者遺族代表をはじめ参列者が次々に菊花を祭壇に献じ、戦没者の冥福を祈つた。

最後に、

本会上浦喜代志副会長が、閉式の辞を述べ、式典は滞りなく終了した。

第11回「平和作文コンクール」

最優秀賞	徳島市津田中学校	二 年	和	田	七	海 さん
優 秀 賞	徳島市北井上中学校	二 年	元	川	瑚	子 さん
	神山町神山中学校	二 年	高	橋	信	晴 さん

最優秀賞

「悲劇を繰り返さないために」

徳島市津田中学校

二年 和田 七海さん



一九四五年七月四日、約千人の命が奪われた徳島大空襲からちょうど八十年の四日、学校で魚野宰弘さんから空襲体験をお話しして頂きました。私は、魚野さんの「戦争は殺戮と破壊ではない。」という言葉が特に印象に残りました。なぜなら、殺戮と言う言葉を初めて聞いたからです。平和な時代に生まれた私には、無縁の言葉でした。海外の戦争や紛争のニュース映像で、まるで災害にあったかのような悲惨な状況を見ることはあっても、実際の戦闘シーンはあまり見ることはありません。八十年経っても鮮明に当時のことを記憶されている魚野さんの体験は、とても辛く、悲しく、二度と味わいたくないものです。

魚野さんが語る戦争の残酷さをより理

解するために、私は翌日、徳島縣護国神社へ行きました。神社の境内には、沢山の慰霊碑が並んでいました。それぞれの慰霊碑に刻まれている碑文を読み、分からない言葉はスマホで調べました。その後、徳島県戦没者記念館へ行きました。中に入ると、数多くの徳島県出身戦没者の肖像写真がありました。犠牲者の数を聞くよりも実際に写真の顔を見ることで、こんなにも命を奪われたのだと思うと胸が張り裂けそうになりました。展示されているパネルや遺品を見て、進んでいくと共に私の気持ちは暗くなっていきました。家族に宛てた手紙は、自分が戦地で大変な思いをしているにも関わらず、家族を慮る文章に心を打たれました。

「この平和は、あの犠牲の上に立つてもらったもの。」

ニユースで見た徳島戦災死没者追悼式に参列した方のコメントの通り、今の日本の平和は歴史の教訓に学んだ結果だと思っています。二度と戦争を繰り返さないために、悲劇の記憶を風化させてはいけません。私は、夏休みに再び徳島県戦没者記念館へ足を運ぼうと思います。ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展が開催されているからです。私は戦争の歴史を学び、命と平和の尊さを次世代に語り継いでいくための知識を増やしていきたいです。

優秀賞

「未来への誓い」

徳島市北井上中学校

二年 元川 瑚子さん



戦争を経験した北井上出身の烏雲先生がいます。烏雲先生は家族と離れ離れになり、中国残留孤児として生活していました。そんな烏雲先生のお話を聞いて、戦争に対する思いが変わりました。

テレビでよくウクライナの戦争のニュースを見ますが、今世界でこんなにも酷い戦争が起こっていると言う実感がありませんでした。その時、去年の文化祭で烏雲先生のお話を聞いて戦争の悲惨さがよく分かりました。

戦争は関係のない子供たちの命を奪います。それは、「人権の尊重」「子供を守る」という法律に反していると思います。戦争をしてもどちらの国も悲しい思いをする人が増える一方です。烏雲先生も何度も「戦争は絶対してはいけない」とおっしゃっていました。

最近、戦争の映画を見ました。戦争で負けた日本の兵隊を相手国の人たちは、

人として見ていないかのように酷いことをしていました。例えば、収容所で過酷な仕事をさせたり、少し菌向かうと酷い罰を与えます。戦争は終わっても家族の元に帰られないまま収容所で亡くなってしまう人もたくさんいます。私は、映画を見て、心が苦しくなるほど悲しい気持ちになりました。この時代は、戦争に勝つことが正義、国のために亡くなることは立派と教えていたそうです。私はおかしいと思います。国のために一生懸命戦って命を落としてしまうとやっぱ家族はとても悲しいと思います。日本が戦争に負け終戦が報告された時、烏雲先生は「よかった」と思ったそうです。日本が負けて悲しいのではなくたくさん的人是は平和に暮らせることを望んでいたそうです。

今でも戦争はあちこちで起こっていて、このような悲しい思いをする人がたくさんいます。私たちは普通にご飯を食べて、布団で寝ると言う毎日を当たり前のように過ごしています。でも、世界にはその当たり前の毎日ができない、生きていくことで精いっぱいの子供たちがいます。もし、自分の家族や友達がそんなつらい思いをすることになると思うと、「戦争はいけない。やめよう。」と思えるはず。その気持ちが一、二人、三人と世界中に広がっていけば、いつか戦争は無くなると思います。

私は戦争を経験していません。身近にも戦争を経験している人は少なくなってきました。だからこそ私たちが平和学習に取り組み、烏雲先生のような戦争経

験者のお話をしっかりと聞いて受け継いでいくことが大切だと思いました。そして私たちの世代になっても次の世代へと伝えていくことをやめてはいけないと思います。そのためには、今、私ができることは戦争のことをたくさん知っていくことが大切だと思います。

優秀賞

「平和と命の大切さを学び」

神山町神山中学校

二年 高橋 信晴さん



四月十九日、修学旅行で沖縄へ向かった私は期待で胸が一杯でした。しかし初日に平和祈念公園と資料館を訪れ、平和の礎に並ぶ二十四万余の名、錆び付いた銃弾や爆弾、焼け野原を映す証言映像を目にした瞬間、驚きと恐怖と深い悲しみが一気に押し寄せ、「戦争は絶対に起こしてはいけない」と固く誓いました。同年代のひめゆり学徒隊が看護や炊き出し、水くみをしながら次々に命を落とし、名前も残らない幼い子どもまで犠牲

になった事実は、普通の授業や笑顔が一瞬で奪われる残酷さを突きつけ、涙が止まりませんでした。戦争は意味のない争いで、人々の生活と幸せを無慈悲に奪う醜い存在だと実感しました。事前学習では、ガマに潜んだ住民が「捕まれば残酷に殺される」という誤った情報を信じ集団自決に追い込まれたチビチリガマとシムクガマの出来事や、映画『さとうきび畑の唄』の「非国民」「それでも日本男児か」という言葉に触れ、デマと同調圧力が理性を奪い命を散らす恐ろしさを学びました。当時の日本では戦争に反対する声さえ許されず、私は「間違いを間違いいと言えぬ勇気」の大切さを痛感しました。普段、私は周囲に合わせようとすることが多いのですが、誤った意見にははっきり「違う」と言える人になりたいと強く思いました。

今もロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナで、砲声が鳴り響き、戦争は決して遠い出来事ではありません。争いの映像や報道を見ると胸が痛みます。私たちに今すぐ戦争を止める力はありませんが、学んだ事実を家族や友人に伝え、いじめや差別といった身近な「小さな争い」を許さず、無駄な衝突を避ける行動を重ねることが平和への第一歩だと感じました。これからは当たり前の日常に感謝し、戦争について考え続け、自分にできることを探しながら行動していきたいです。

第十九回特別企画展

「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展」を開催

終戦間際の昭和二十年八月六日の広島市、八月九日の長崎市へ投下された原子爆弾により、一瞬のうちに多く命が失われ、街は何もない焼け野原となりました。

この出来事は、人々の記憶に深く刻まれ、終戦から八十年が経過した現在でも、当時の状況等が語り継がれております。

今回の特別企画展は、広島市・長崎市が共同で作成した、原爆

被害に関するポスター展示、映像資料の放映などにより、「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ・命の大切さ」を考える機会としていただくため開催しました。

開催期間は、夏休み期間と重なる令和七年七月二十六日（土）から八月二十四日（日）で、小中学生をはじめとする若い世代を中心に、約千九百人の皆様に来館いただきました。

た。

今回の特別展の開催にあたっては、広島平和記念資料館様の全面的な御協力により、貴重な写真資料等を展示することができました。

また、広報活動などにおいては、徳島市様に御協力いただきました。

関係者の皆様には、深く感謝申し上げる次第であります。



戦没者記念館だより ― 写真展示数 8,209柱 (R7.9.20 現在) ―

▶ 来館者のお声

- ・護国神社を巡った帰りに寄らせていただきました。展示資料も思ったより多く、当時の歴史・事実を学びました。また来させてもらいたいと思います。(岡山県：40代・男性)
- ・年齢とともに先の大戦や今の日本の礎となってお亡くなりになられた方々への感謝の気持ちが大きくなってきました。自分の子供たちの年齢でお亡くなりになられた方々のお写真を拝見し、改めて平和の尊さや日々の日常が何不自由なくできていることに感謝したいと思います。(香川県50代・女性)
- ・知っていたつもりが知らなかった事の多さに驚きました。心に残ったものを忘れず、今後平和について、人と人とのあり方について考え、生きていこうと思います。(県内：40代・男性)
- ・たくさんの資料があってすごく考えさせられました。事実を伝える写真が多くて良かったです。(兵庫県：10代・女性)
- ・去年、愛媛県の紫電改展示館に行き、和歌山出身のパイロットがいたと知り、今年知覧に行きました。多くの若者が亡くなったところを知り、歴史を知りたくなりました。インターネットでこの場所見つけ、一度来てみたかった。(和歌山県：40代・男性)
- ・他の戦没者記念館にはないような貴重な展示解説、展示物がいくつもあり、もっと全国的に知られても良いのではないかと思います。足を運ばせることを目的としないなら、Web上に「オンライン記念館」として載せることで多くの人に史実を広く知ってもらえると思う。(東京都：40代・男性)
- ・これらの尊い命が本当に望んでいた家族との団らんや愛する人との交流・日常、美しい自然、互いに尊敬・尊重し合いながら平和の世を保つことこそ、後世を生きる私たちの使命であり責務であると感じました。遺族会の方々にもこのように歴史と愛を残してくださり、伝えてくださったこと、心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。(愛媛県：40代・女性)

語り部事業講演要旨

●第100回語り部事業 7月12日(土)

真珠湾奇襲攻撃 捕虜第1号「酒巻和男の戦後」

海部郡美波町赤松 青木 弘亘 氏



今回は、酒巻和男さんの戦後を中心に話をさせていただきます。

酒巻さんが戦後にどういう人生を歩んできたか簡単に申しますと、1946年(昭和21年)に帰国した後に、昭和22年に「俘虜生活四ヶ年の回顧」・昭和24年に「捕虜第1号」と2冊の本を出版しました。昭和22年にはトヨタ自工に入社、1969年(昭和44年)から14年間「トヨタ・ド・ブラジル」の社長を務め、帰国後1987年に退職、1999年(平成11年)11月にお亡くなりになっております。

まず、俘虜生活終了後にアメリカのシアトル港から船に乗って帰ってきました。

酒巻さんが帰国して、最初に行ったのは青春時代を仲間と過ごした三機の「いわみや旅館」だったそうです。

酒巻さんは、戦争のことに関してほとんど語っておりません。

理由は、自分の地位からすると、うっかりしたことを話せば国際問題になると思わなかったようです。その後、1989年(平成元年)8月2日の徳島新聞には、極東軍事裁判で酒巻さんが弁護側証人として供述したことが載っております。

このことは、酒巻さんが「国際問題になるようなことはあまり言わないように」との考えだったので、私はあまり話をしませんでした。

しかし、戦後80年が経過して事実として残しておくべきと考えましたので、今回発刊した本に載せてございます。

調査には、捕虜生活中に「毒入りのコーヒーで暗殺されかけたこと」、「捕虜が暴れて米兵が鎮圧のため銃剣を使い日本兵の負傷者が多数出た」などと書かれています。

酒巻さんは、いろいろ資料をもらっていたのですが、世間に発表することは控えるということで、息子さんによりますと、自宅の布団の下にあった資料が見つかり本に載せることができました。

次に、豊田穰氏との話ですが、彼は酒巻さんと同じ江田島の海軍兵学校の生徒であって、二人とも親しい間柄でした。豊田さんは、飛行機が撃ち落されて太平洋を漂流していたところを助けられて捕虜となり、酒巻さんと収容所で再会しました。

帰国後、豊田氏は中日新聞の記者になり、記事にしないとの約束を破り、酒巻さんのことを新聞に載せました。

酒巻さんは、かなり怒ったそうですが、それがきっかけで「名古屋のトヨタ自動車に就職しないか」と勧誘され入社したそうです。人生というのは、ほんとにわからないものです。

トヨタ自動車に入社した酒巻さんは、学生を指導する教官になってくれと言われまして、若いトヨタ自動車の高校に入学した学生の教育を行いました。

酒巻さんの教え子は社会人として立派に成長し、中には叙勲を受けた人もいます。

トヨタ・ド・ブラジルの社長時代には、仕事が忙しくても徳島県知事をはじめ徳島からブラジルに訪れる人たちのお世話をしました。

また、徳島県人会だけでなく、日系商工会議所専務理事を務めるなど、酒巻さんが本業も含め、毎日が分刻みのスケジュールだったことが、手帳に記録されています。

豊田穰夫妻がブラジルを訪れた時に、酒巻さんはサンパウロの名士になっていたそうで、帰国後にそのことを発表しています。

さて、酒巻さんは乗っていた特殊潜航艇がテキサスで展示されていることを知っていましたが、戦後は現地を訪れませんでした。

しかし、講演会の講師としてテキサスに招かれた時、真珠湾攻撃から50年振りに再会することになりました。

また、現地関係者と「真珠湾奇襲攻撃をした日本軍はけしからん」、酒巻さんは「戦争というものは奇襲であってこそ戦争である」という議論になったそうです。

最後に酒巻さんは「考え方をお互いにリフォームして、お互いの国が平和の中でこれから共存していきましょう」と言っております。

愛媛県伊方町三機で寝食を共にし、特殊潜航艇の訓練で青春時代を過ごした戦友たちはこの世を去って逝った。一人生き残った酒巻さんは戦友を想い涙を浮かべることがよくあったようです。

三機湾は、非常に静かな湾で広いところです。ここに須賀公園がありまして、1966年(昭和41年)に「大東亜戦争九軍神慰霊碑」ができました。これ以後、毎年12月8日に地元青年団主催で慰霊祭が実施されています。

9人が戦死して軍神となりましたが、酒巻さんは、当時の国の都合により存在を消されていたと言われておりまして、戦後になっているんことがわかってきたそうです。

さて、酒巻さんを含む10人を顕彰する碑を建立しようと、2021年(令和3年)12月8日に、開戦80周年記念としてクラウドファンディングにより「史跡 真珠湾特別攻撃隊の碑」を須賀公園に建立しました。酒巻さんが戦友と再会することができたわけです。

この碑を建立するときに名称に最も気を使いました。全国の忠魂碑などに関してはいろんな御意見があるということで、専門家の意見をうかがい「史跡」という形にしました。

碑文の内容は、「真珠湾軍港を攻撃するため特殊潜航艇5隻による特別攻撃隊が編成された」、「9人は戦死後二階級特進し九軍神として讃えられた」、「酒巻さんは自艇の故障・座礁で米軍に収容され捕虜第1号となった」、「戦後、トヨタ自動車工業に入社し14年間ブラジルトヨタ社長を務めるなど、戦後復興の最前線で約40年間にわたり企業戦士として活動した」、最後に「開戦80周年に当たり真珠湾特別攻撃隊の史跡として共に青春の日々を過ごした三機の地にこの碑を建立する」となっています。

ここで、本日は酒巻さんの長男「酒巻 潔さん」に愛知県からお越しいただいておりますので、お父さんへの想いなどをお話いただくことにします。

【酒巻 和男氏の長男：酒巻 潔氏の話】

長男の酒巻 潔(きよし)でございます。

父は、真珠湾攻撃で二人乗りの潜航艇に乗り、三重県出身の稲垣清さんと一緒にハワイの戦艦をめざして向かい、最終的に稲垣さんも戦死されて九軍神の一人となり、父だけ捕虜になって生きて帰ってきたわけです。

小学生の時の宿題で、私の「潔」という名前を何故つけたのかというのがありまして、父に聞くと、ちょっと考えてから「潔し」読んで字の如くだと言っていました。

青木さんが本を作っていただくまで、私も姉もマスコミはシャットアウトだったんです。そういう命を父から聞いておりました。

何故か、子供の頃には父のことを良く思う人間は殆どいなくて、「なんで帰ってきたのか。」こういう方ばかりで、その後は父のことなんか興味もなく本を読んだこともありません。父の手記を70歳まで読んだこともありませんでした。

ところが、青木さんが本を読みやすくして発刊していただいたので読んだら、「すごい父だな」と父のことを見直すようになりました。

この本のお陰です。また、本を通じて多くの人達と交流を図り、知り合いになりました。

私の「潔」という名前も、稲垣清さんの「清」をずっと父は背中にしょって生きてきた証ではないかと今では思っています。

そして、本の内容が非常に素晴らしく多くの人に読んでもらいたいという気持ちで、私も姉も愛知県から徳島に来たわけです。どうぞよろしくお願いします。

【青木氏の話：続き】

酒巻 潔さんどうもありがとうございます。

今のお話にもありました稲垣清さんですが、2人が乗っていた特殊潜航艇はジャイロコンパスが故障し、盲目の状態で真珠湾への突入を試みましたが、何度やっても失敗しました。

ここで、部下である稲垣さんが上官の酒巻さんに対して待ったをかけた。

このまま突っ込んでダメなので、次の機会を待ちましょと進言したのです。

当時は上官の命令は絶対でしたので、通常なら「黙れ!突っ込むぞ」と言われて終わるのがあたり前でしょうが、酒巻さんは「そうやな、もう一度やってみてダメだったら引き返そう」と稲垣さんの意見を受入れます。

この稲垣さんの一言によって、酒巻さんは救われ、禪一丁で海に飛び込み意識を失って海岸に打ち上げられます。

海岸で米兵に見つかりますが、軍服を着ず軍刀も持たず裸だったので、ピストルで撃たれることもなかった。そんなことが原因で、酒巻さんは助かり戦後日本に帰国することになりました。

戦後は、トヨタ自動車です社員教育を行い、高度成長を支えた人材を育成しました。

ブラジルでは、日本語しかできない多くの日本人を助けるために必死で頑張った。

私は、酒巻さんに「よく帰ってきていただいた」、「よく日本のために尽くしてくれた」と感謝しております。

何故かという、私は山で育った人間です。山での生活は、人と人が助け合って生きていくというのがあたり前の社会です。このような助け合いの精神を世界の人々に持っていただけければ、争いごとでもなくなるのではないかと考えています。

本日は、5月の「訓練・奇襲攻撃・俘虜生活」に関する話に引き続き、酒巻和男さんの親族をはじめ、碑の建立や本の発行にあたりお世話になった関係者の皆様にお越しいただき、酒巻さんの戦後についてお話をさせていただきました。どうもありがとうございました。

お 慶 び

令和7年6月29日 受賞

日本遺族会会長表彰受賞



徳島県遺族会 元評議員
徳島市東富田地区 会長

河 野 禎 之 氏



徳島県遺族会 理事
板野郡遺族連合会 会長

白 川 潔 氏

多年にわたり遺族会の発展と、会員の福祉の向上に多大なるご貢献をいただきました。
心よりお慶びとお礼を申し上げます。

百歳のお慶び

川田 シズ子さん（阿南市）



令和7年8月27日、川田シズ子様（阿南市）がめでたく百歳のお誕生日を迎えられました。
徳島県遺族会会長よりお預かりしたお祝状と記念品を贈呈させていただきました。

60年前に阿南市宝田町において、ご家族が「川田なんでもや」という飲食店を開業され、川田さんが切り盛りされてきたとのこと。

お誕生日当日は、入所施設において、長寿を記念する式典が盛大に行われ、川田さんもご家族から祝福され、大変ご満足されたご様子でした。

これからもお健やかに、穏やかな日々を過ごされますことを心よりお祈り申し上げます。

宝田地区遺族会会長 近藤 光男

中井 ユリ子さん（吉野川市）



令和7年7月11日に中井ユリ子様が百歳の誕生日を迎えられました。
最近体調を崩され、サービス付高齢者住宅へ入居されていますが、ご自宅でご家族、親戚が集まって百歳のお祝いをされるということで、県遺族会会長様からのお祝い状と記念品、牛島遺族会からはお祝い金をお贈りしました。お会いすると百歳と

は思えないほどお元気で、「百歳まで生きれるなんてありがたいな。」とご家族に感謝の気持ちをお話しされていました。

中井さんは8人兄弟の長女としてお生まれになり、ご結婚後は家業の農業に精を出すとともに、お二人の息子様にも恵まれ、忙しい日々を送られました。お子様が社会人となってからは、書道教室や水墨画教室に通われるなど多趣味で、今も作品が玄関に飾られていました。これからも趣味を楽しまれ、いつまでもお元気で過ごされますようお祈りしています。

牛島遺族会会長 住友 久之

地方だより

令和7年度 市町村戦没者追悼式の開催

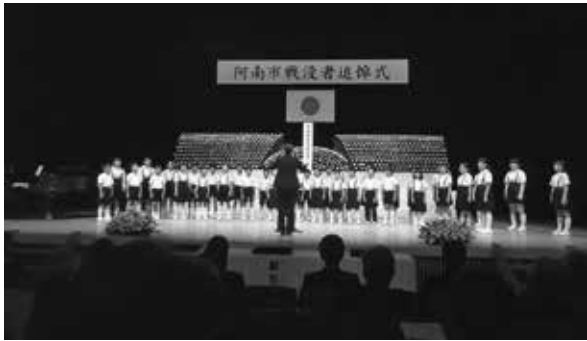
令和7年度の戦没者追悼式が各地域において執り行われ、当日は県遺族会役員が参列しました。



海陽町戦没者追悼式：6月22日



板野町戦没者追悼式：6月28日



阿南市戦没者追悼式：6月29日



上勝町戦没者追悼式：7月31日

令和7年 度慰霊友好親善事業の参加者募集

日本遺族会が、厚生労働省から補助を受け実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度参加者を募集しています。

本事業は、終戦80年及び事業実施35周年を節目として、今回が最後の事業実施となります。

なお、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代へ語り継ぐことを目的に、青年部育成の一環として付添者の孫、ひ孫、甥、姪は国より旅費の補助（実費の1/3の額）があります。遺児と共に多くの青年部が付添者としてご参加下さいますようお願いいたします。

■参加費 10万円（遺児の参加費）
集合場所までの往復交通費、帰国時宿泊代、渡航手数料等は含まれておりません。

■参加資格
戦没者の遺児（周辺公海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る）

■実施地域など

	実施地域	実施時期等	募集人員	申込締切
1	フィリピン (特定地域)	令和7年12月10日（水）～12月17日（水） 7泊8日 ・A班＝マニラ及び東方山地 ・B班＝クラーク、マニラ南方（リパ、ルセナ） ・C班＝ルソン島北部（バギオ、クラーク） ・D班＝ルソン島北部（バレット峠、ソラノ、キャンガン、オリオン峠） ・E班＝ネグロス島（バコロド）、ミンダナオ島（ダバオ） ・F班＝セブ島、レイテ島（タクロバン、ブラウエン、リモン峠、ビリアバ、カンギボット山、オルモック）	120人	令和7年10月10日
2	ミャンマー (特定地域)	令和8年3月7日（土）～3月15日（日） 前班：令和8年3月7日（土）～3月13日（金） 6泊7日 後班：令和8年3月9日（月）～3月15日（日） 6泊7日 ・ヤンゴン（ラングーン）、ペゲー	前班・後班 ごとに 各30人	令和7年12月5日

■申込方法 県遺族会事務局へ Tel: 088-636-3212

徳島県遺族会 青年部メンバー募集

戦没者とその時代を学び、平和について一緒に考えましょう

徳島県遺族会は、先の大戦で最愛の肉親を失った悲しみを乗り越え、悲惨な戦争を繰り返さないことを固く誓い、昭和26年（1951年）の創立以来、一貫して平和を求めて活動を続けています。

今後も史実を語り継ぎ、平和な日常を求めていくため、戦没者の孫・ひ孫の世代を中心に「青年部」を発足しています。さらに活動の輪を広げていくため、メンバーを募集します。

直接のご遺族でなくても参加可能です！！

青年部員の声

- ・戦死した祖父の戦跡を始めて知りました。どんなに辛い気持ちで亡くなったのかと思います。祖父のお陰で今の自分たちがいられると感謝の気持ちで一杯です。(40代女性)
- ・戦争は絶対に起こしてはならないと改めて思います。一度始まると終わらせるのは難しい。子どもたちに伝えて行きたいと思います。(40代男性)

青年部への登録方法

※登録は無料です。随時、各種行事の案内が届きます。

※参加してみたい行事や活動に無理のない範囲で気軽にご参加ください。

※右記のQRコードを読み取っていただくと、ホームページで概要がわかります。



活動内容

※全国戦没者追悼式、沖縄「徳島の塔」慰霊祭への参列

※語り部事業、小中学生への平和学習、研修会への参加

※他県遺族会との交流会、徳島県護国神社祭事（例大祭）への参列など



全国戦没者追悼式



沖縄「徳島の塔」慰霊祭



平和の語り部研修会

お問合せは、お気軽に徳島県遺族会事務局まで

☎ 088-636-3212

「春の靖国神社参拝団・千羽づる奉納旅行」の実施について

今年度も「春の靖国神社参拝団」を募集します。

今回も昨年度と同じく2泊3日の行程で千羽づる奉納・富士山周辺の観光地巡り、石和温泉での宿泊などを予定しております。

多数のご参加をお待ちしております。

6. 行程 (予定)

- 1 実施予定日
令和8年3月30日(月)～4月1日(水)
- 2 主な行先
靖国神社正式参拝、山梨県護国神社(千羽づる奉納)、富士五湖周辺観光地、石和温泉 など
- 3 旅行代金
12万円程度
- 4 募集人員
40名(最少催行人員25名)
- 5 募集締切
令和8年1月下旬

日時(曜)	行 程
1 3/30 (月)	出発 徳島空港 9:00 → JAL454 羽田空港 10:10/10:45 → 記念撮影後、ご参拝 靖国神社(昇殿参拝・昼食) 11:30 → 東京都庁展望室 13:50 → 東京の桜を車窓よりご見学 老舗の和菓子店やお土産物店が並ぶ 柴又帝釈天および参道散策 15:50 → 夕食はホテルにて 17:45 東京都内(泊)
2 3/31 (火)	出発 ホテル 8:30 → 外苑IC 9:40/9:55 → 休憩 富士山と河口湖の絶景を 談合坂SA 10:40 → 河口湖IC 11:40 → 河口湖(昼食) 11:55 → 富士山パノラマロープウェイ 12:55 → 山梨県護国神社 15:00 → 千羽づる奉納 16:00 有名な「桔梗屋」の施設 桔梗信玄餅工場テーマパーク 16:30 → 石和温泉(泊) 17:00/17:10
3 4/1 (水)	出発 ホテル 8:30 → 一宮御坂IC 9:35/9:50 → 休憩 貸切船にて船上から桜をご見学(昼食) ※越中島乗船場発着 お花見屋形船乗船(スカイツリー・橋めぐり周遊コース) 10:40頃/11:00 13:30/13:40 → 羽田空港 14:10/15:40 → JAL461 徳島空港 16:55

注1) 上記の行程は、事情により内容を変更する場合があります。
注2) 最終の旅行代金・行程等は11月下旬までに確定し、募集チラシを作成しますので、県遺族会事務局までお問い合わせください。

遺族会の動き

令和7年七月～九月実施行事

七月

12日 正副会長会(護国神社)

12日 語り部事業(戦没者記念館)

26日～8月24日 特別企画展(戦没者記念館)

2～3日 みたま祭り(護国神社)

14～15日 全国戦没者追悼式(日本武道館)

15日 平和祈念祭(護国神社)

29日 徳島県戦没者追悼式(あわぎんホール)

九月

10～11日 英霊にこたえる会 中国四国ブロック会議(松山市)

13日 正副会長会(護国神社)

13日 語り部事業(戦没者記念館)

27～28日 日遺中国四国ブロック会議(松江市)

令和7年十月～令和8年三月行事予定

十月

29～30日 日遺事務局長・事務局職員研修会(ホテルサンシャイン徳島)

十一月

2日 例大祭(護国神社)

8日 正副会長会(護国神社)

8日 語り部事業(戦没者記念館)

15～16日 沖繩「徳島の塔」慰霊巡拝(糸満市ほか)

十二月

5日 全国戦没者遺族大会(自民党本部ほか)

6～7日 日遺女性部平和の語り部研修会(九段会館テラス)

20日 青年部平和の語り部研修会(ザ・グランドパレス)

一月

10日 正副会長会(ザ・グランドパレス)

10日 語り部事業(戦没者記念館)

下旬 日遺青年部長会議(九段会館テラス)

下旬 日遺事務局長会議(九段会館テラス)

下旬 日遺女性部長会議(九段会館テラス)

三月

14日 正副会長会、記念館企画運営委員会(護国神社)

14日 語り部事業(戦没者記念館)

22日 理事会・記念館奉賛会総会(護国神社)

30日～4月1日 春の靖国神社参拝団・千羽づる奉納旅行(東京都・山梨県)

会報の次回発行は、
令和8年1月号です

本会の会報は、年4回(1月・4月・7月・10月)に発行します。